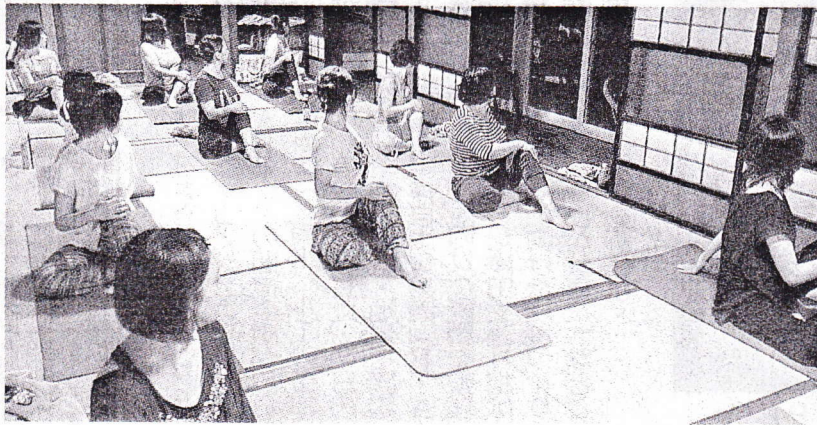


帯広電信通り商店街振興組合 salon齋藤亭

開設半年、利用伸びる

SNSで拡散目的も多様

帯広電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)がつくったコミュニティ施設「salon(サロン)齋藤亭」(帯広市東2南4)が、5月15日の開設から半年を過ぎた。SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)の口コミで評判が広がり、毎月の使用人数は延べ約300人と市民に喜ばれている。

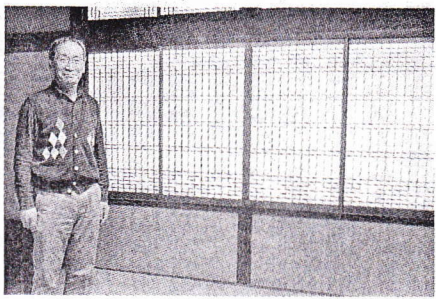


ヨガ教室の会場など幅広い利用があるサロン齋藤亭

同施設は、裁判官だった故齋藤長明さんが退官後の1934(昭和9)年に建築した住宅。8年ほど使われていなかったが、同組合が整備し、近隣住民がボランティアで清掃、維持している。

10畳、20畳の和室と10畳の洋室、キッチン、ダイニングを備え、各部屋とも3時間まで1000円で貸し出している。

会議やセミナー会場としての需要が多い。フェイスブックの口コミで広がり、



「和室も雰囲気がいい」と利用を呼び掛ける長谷理理事長

使用者の多くは30〜40代。日中は畳の上にマットを敷きヨガやピラティス、夜間は飲食会の会場など幅広く活用されている。

齋藤さんの孫で市内に住む、建物所有者の富山弘美さんは「自分が住んでいたこともある思い入れのある建物。活用してもらえたらうれしい」と話す。

同施設の実現は、地域住民からコミュニティ施設整備の要望があったことが始まりだが、主な使用者は市内全域の若い世代。高齢化が進む東地区で、周辺住民が集うきっかけをどのようにつくるか、これからの課題となる。

長谷理理事長は「当初の予想を上回り、利用数は順調に推移している。地域の人々に喜んでもらえるよう、より利用しやすい仕組みづくりを考えていきたい」と話している。(草野真由)